



中体連 富中のサッカーで活躍する川村君



桜中のバレーボール、惜しかったね！椎野さん



富中のバレーボール



富中のバレーボール



1年で活躍、的場さん



武修館地区大会決勝



チアで活躍する高橋さん



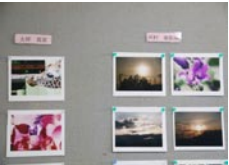
写真部の河村さん



武修館の文化祭



カラオケ、先生も熱唱



大坪・河村さんの写真



7/19の車いすマラソンでは武修館が応援やお



手伝いに一生懸命でした



選手は北海道から沖縄まで全国から参加



夏期講座、宿題沢山出ます がんばってね



放射線技師を目指す住川さん。8月は釧路で実習、国家試験にむけてがんばって



14期生、根内さんが使っていた辞書を持ってきた。凛梨ちゃん2歳とかわいい！



★平和読書感想文コンクールで最優秀賞★

沖縄戦を体験した少女を描いた「白旗の少女」を読み、第28回平和読書感想文コンクールに応募した。「小学生の時に読んだ時には怖い、残酷だと思った。今回読み返して私と同世代の少女がどう感じ、自分だったら置き換えて考え、たまらない気持ちになっただ」

道教育大附属釧路中に通う3年生の諫山莉奈さん。戦後70年の今年、平和や安全保障に関する報道が増え、関心を持っているという。「戦争は過去のこと、私たちに関係のないことではないと思う。難しいテーマですが、逃げずに考えてみたい」と話している。

(北海道新聞7・23より)

8月9日の長崎市 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に招待されそこで発表するそうです。

★湿原マラソンで菅原君優勝★

7月26日に第43回湿原マラソンが3870人が参加して開催された。



塾生の菅原君もお父さんと親子マラソンに参加し優勝しました。学校から帰ってくると、ほぼ、暑い中、毎日のように5キロから6キロを走る練習をしていました。今年初めから優勝をという目標をもって走っていたので1位になれて本当によかったですね。日頃の努力が結果に繋がるのはスポーツも勉強も同じですね。

以下は新聞記事からです。



3キロ親子マラソンを制した菅原宏仙さん(釧路消防署)、皇誠君(釧路町立富原小6年)は三度目の正直での初優勝。11分47秒と前回より約1分タイムを縮めてのゴールに皇誠君は「1位を取れてよかった」。宏仙さんは「一緒に走れるのが今回で最後だったのでいい思い出になった」と話していた。

『釧路高専3コースに再編』

年度から 少子化見据え定員削減
釧路工業高等専門学校(岸徳光校長)は、来年度から現行5学科を「創造工学科」の1学科に統合し、機械・情報の「スマートメカニクス」、電気・電子の「エレクトロニクス」、「建築デザイン」の3コース制に再編する。

今後の少子化を見据え、定員は2割減の1600人に削減。学科再編でさまざまな専門分野の知識を幅広く身に付けてもらい、地域に貢献する人材育成を目指す。

来年度から、スタートする創造工学科は、現行5学科の専門分野を融合させ、地域社会、産業界で求められる横断的な専門知識の習得を目指した学科。機械工学と情報工学を一体化した「スマートメカニクス」(定員60人)、電気工学・電子工学を組み合わせた「エレクトロニクス」(同)、建築から移行する「建築デザイン」(同40人)の3コースを新たに開設する。

1年次は一般教養と専門の基礎科目を学び、2年

進級時にそれぞれのコースを決定。2、3年次は自ら選択した専門分野に加え、周辺分野についても学習する。4年次は創造工学科の大きな特徴ともいえる「複合型融合演習を開講し、小グループでコースの枠を超えた課題解決型の学習に取り組む。他分野の専門領域を含めて自ら考え、学ぶ演習で、5年次の卒業研究でその成果を発展させる。

地域からの要望に応え、今後は技術者教育にとどまらず、経営能力や起業家精神を養う教育も試みる。同校の川村淳浩副校長は「実践的な課題解決能力を育むことが大きな目的。地域創生を替つ技術者を送り出していきたい」と話している。

(7・11釧路新聞より)

★学力コンクールは10日(1・2)、11日(3)★

試験は10時30分開始です。いつものことですがコンパス、定規、昼食が必要です。忘れないでね！

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	
休	休						休						夏						夏		休								夏	
休	休						休						夏						夏		休								夏	

8月の予定

携帯電話の
教室持込禁止
携帯電話の持込は禁止。
連絡は塾の電話を使用
して下さい。

『両親失い「野良犬」と呼ばれた』

戦争孤児の70年

70年前。たくさん子どもたちが空襲などの戦禍で親を突然奪われた。過酷な戦後を生き抜き、小さな目で社会の現実を見つめた。消えていった無数の幼い命の代わりに、重い過去を伝える元戦争孤児たちがいる。

「はよ逃げるんやっ」

焼夷（しょうい）弾の嵐で天井が崩れかけた防空壕（ごう）から強く外へ押し出された。その時の必死な表情が、最後に目にした母の顔となった。

1945年6月5日の神戸大空襲。山田清一郎さん（80）＝埼玉県小鹿野町＝の母は、崩壊した防空壕に埋もれた。父は3月の空襲で失っており、山田さんは10歳で孤児となった。

「ここに母ちゃんがいる」と思うと離れられず、2日間ほど防空壕の前に座り込んだ。空腹に耐えかねて食べ物をあさり、また戻る。その繰り返しだった。

終戦後も頼る人はいなかった。「捨るか、もらうか、盗むか」。それしか生きる道はなかった。弁当を食べている人の前に手を出す。屋台の客の食べ残しにとびつく。残飯もすくって食べた。

三ノ宮駅近くの焼け跡に壊れた大きな金庫があった。数人の仲間と寝泊まりした。冬場は寒さをしのぐため、汽車に無賃乗車して、行き先もわからぬ車内で眠った。「狩り込み」と呼ばれる取り締まりで捕まったこともある。悪臭がする浮浪児を職員は「一匹、二匹」と数え、裸にしてホースで水をかけた。「ばい菌の塊」「野良犬と同じ」と言われた。なぜ浮浪児になったか、わかっているはずなのに。母の顔を思い出し、涙がこぼれた。

一つ年下のアキラという少年がいた。大阪と神戸の空襲で母と祖母を亡くし、出征した「父ちゃん」が帰る日を待ちわびていた。兄弟のようにいつも一緒だった。

ある日、元町駅近くの店から2人でトマトを盗んだ。店の人に追われ、人混みを抜けて通りに出た瞬間、走ってきた車にアキラがひかれた。車の下でピクリとも動かない。即死だった。真っ赤な血が路上に広がり、つぶれたトマトが転がっていた。

運転していた米兵は、アキラをシートにくるんで車に乗せ、走り去った。声を出すこともできなかった。「アキラを思い出すから、わたしは今もトマトを食べることができません」

46年秋。仲間と一緒に無賃乗車で東京に向かった。母のいた防空壕跡の土をポケットに詰めこんで。

上野駅の地下道に新聞をしいて寝た。同じような子がたくさんいた。新聞売りやモク拾い（たばこの吸い殻集め）などの「仕事」もした。同年代の子が学校に通う姿をみても、何も感じなくなっていた。

残飯にあたり、自らも含め数人が腹痛で駆け回ったこともある。栄養失調による衰弱死や凍死も含め「地下道で子どもが死ぬのは珍しいことではなかった」。名古屋から来た少年が地下道で命を落とした。死の間際、「母ちゃん、母ちゃん」と小さな声で呼んでいたのが忘れられない。

■「戦争は心をゆがめる」、講演で体験語る

今年7月16日。秩父市立吉田中学校で開かれた講演会で、山田さんは生徒たちに戦争孤児の体験を語っていた。

空襲の残酷さもアキラの死も、ありのままに。最後に、受け取る人のない「母への手紙」を読み上げた。

「ありがとう、お母さん。あなたの子どもはここまで生きてきました」

長野県の孤児施設に入り、13歳で3年ぶりに小学校に通った。孤児への差別や偏見は根強かったが、「馬鹿にされたくない」と耐えた。定時制高校をへて23歳で夜間大学に進学。30を越すアルバイトをしながら学び、卒業後、27歳で中学校の教員になった。母やアキラに「ここまで生きてきたよ」と言いたい。その思いが支えだった。

浮浪児だった過去は妻子にも詳しく語ってこなかった。講演などで積極的に伝えるようになったのは、19年前に退職した後のことだ。

本当に混乱した状況では自分と家族を守るので精いっぱい。子ども一人で焼け跡に取り残されていても誰も目を向けない。戦時の人の心の冷たさが今も胸に刻まれている。

「戦争は心をゆがめる。生き残った子どもにも生涯消えない傷を残す」。「野良犬」と呼ばれながら生き抜いた一人の戦争孤児の思いだ。（編集委員・清川卓史）

■戦後の孤児12万人超 公的支援行き渡らず

厚生省（現・厚生労働省）が48年に実施した一斉調査によると、沖縄県を除く全国の孤児総数は12万3511人だった。内訳は、空襲などによる戦災孤

児が2万8248人、国外からの引き揚げ中などに親を失った引き揚げ孤児が1万1351人、病死などによる一般孤児が8万1266人などとなっている。

政府は45年9月、養子縁組あっせんなどを柱とする「戦災孤児等保護対策要綱」を決定。文部省（現・文部科学省）は学童疎開中に孤児になった児童らを対象に「合宿教育所」を各地に設けた。だが、街頭には浮浪児があふれ、一部の民間施設は私財を投じて救済に奔走した。

戦争孤児問題に詳しい立教大学の前田一男教授（日本近代教育史）は「国の孤児救済策は形だけはあったが、実際はほとんど機能しなかった。施設不足も深刻で食糧事情や待遇も劣悪。多くの孤児に公的支援は届かなかった」と指摘。「自己責任で生きることを強いられ、犯罪まがいの行為に手を染めるしかなかった孤児もいた」とも語った。

「すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない」とうたう児童福祉法ができたのは47年。この法律の出発点にあったのは、戦災孤児や浮浪児たちの保護問題だった。

朝日新聞 digital 7月28日より



中学生に戦争孤児体験を語る山田清一郎さん。7月16日、埼玉県秩父市の吉田中学校で



浮浪児の「狩り込み」。最終列車で眠ろうとして係員に連れ出される少年＝1947年7月、東京駅

『正しい姿勢で椅子に座れば集中力』

いすに座った際に意識して姿勢を正す指導が、各地の学校現場で注目されている。良い姿勢を定着させれば、腹筋や背筋が鍛えられ、学習への集中力も身に付くという専門家らの指摘もある。

「腰まっすぐ」指導広がる学校「腰骨を立てましょう」

先月下旬、埼玉県の深谷市立桜ヶ丘小学校。1年4組の朝の会で日直が呼びかけると、児童らは椅子に腰掛け、足の裏を床にぴったりつけるようにし、お尻を後ろに突き出す。おなかは前に出して、腰椎の周辺をまっすぐに保つことを意識する。最後に肩の力を抜いて1分間黙想した。今年度始まった「腰骨タイム」だ。朝の会が終わっても児童らは良い姿勢のまま、1時間目開始のチャイムを待ち、静かに授業に入る。

入学当初は、椅子に座った時に足を組んだり投げ出したりする子もいたが、次第に良い姿勢が定着したという。阿部大志郎君（7）は「気持ちガスッキリして勉強に集中できる。最初はちょっときつかったけどもう慣れた」と笑顔を見せた。河田重三校長（57）は「姿勢が良くなれば学習意欲が高まり、人の話もしっかり聞く態度が育つのでは。姿勢の変化は心や体の異変に気付くサインにもなる」と話す。その上で「ただ姿勢を良くしましょうと言うのではなく、具体的な方法を教えることが大切」と指摘した。

日本体育大などの調査によると、座っている時の姿勢が悪い児童が「最近増えている」と感じている小学校教員は、2010年に69%に上った。調査に関わった同大の野井真吾教授（学校保健学）は、姿勢の悪さについて「ゲームやスマートフォンなどの普及や外遊びの減少に伴い、体を起こしたり支えたりする体幹の筋力が低下している」と分析する。姿勢が悪いと、首や肩のこり、腰痛のほか、内臓が圧迫されて消化機能の低下につながるなどの影響があるといい、外遊びや生活リズム改善の必要性を指摘する。

栃木県的那須烏山市立荒川小は昨年夏から、朝の会で音楽に合わせて、腰を意識して背伸びや前屈などをする1分程度の体操を取り入れた。「体を動かすことで姿勢が良くなっただけでなく、集中力の高まりも実感している」と鈴木博司校長（53）。授業では、教員が1時限に3回以上姿勢の良い子を褒め、達成状況をチェックしている。宮崎県教委は2011年度に策定した教育振興基本計画で、「腰骨を立てる指導」の推進を盛り込んだ。昨年度の県内の公立小中高校の実施率は83%。教委の担当者は「腹筋や背筋が鍛えられ、体力向上にもつながる」と期待する。福岡県古賀市は12年秋から、全公立小中学校で始業前に「腰骨を立てる時間」を設けた。びわこ成蹊スポーツ大の新宅幸憲教授（発育発達学）は、「腰は、体のバランスや姿勢に関係する重要な部位。保護者も協力して、小学4年生頃までに良い姿勢を習慣付けることが望ましい」と指摘している。

よい姿勢で椅子に座るための留意点

- ◆ 椅子の背にもたれかからないように腰掛ける。
- ◆ 足の裏を床にぴったりとつける。
- ◆ お尻を後ろに突き出す。
- ◆ へそを前に突き出すイメージで腰骨を立てる。
- ◆ 下腹に軽く力を入れる。
- ◆ 肩の力を抜く

読売新聞から